

## ICTを活用した教育体制構築に関する実証事業 報告書

|   |
|---|
| 1. 学校名  |
| フランクフルト日本人国際学校  |
| 2. テーマ  |
| コロナ禍における「学びの保障」を維持するためのICTの活用   |
| 3. 取組の概要  |
| <p>(※報告書の内容を要約し、200～400字程度で記載してください。)</p>   |
| <p>2020年度当初のフランクフルト日本人国際学校は、コロナ禍により学校閉鎖となった。本校では各教室でのWi-Fiの環境が整っていないため、一日各学年2時間程度のオンライン配信による授業しかできなかった。そこで、今後の「学びの保障」を維持するためにも夏休み中に全教室にWi-Fiの環境の整備を行った。2学期はコロナ禍の状況も良くなり対面授業が可能となった。しかし、コロナ禍の状況には変わらず、感染リスクを避けるために、異学年との交流や現地校との交流そして保護者の行事への参観は行わないこととした。夏休みに各教室のWi-Fiの環境が整ったことにより、コロナ禍においてICTを活用することにより、感染リスクを抑えながら可能な活動が多くあると考えた。例えば、日本に一時帰国をされていて登校できない児童生徒やコロナの感染防止策のためやむを得ず登校できない児童生徒にもICTを活用することで、オンラインで授業を配信することができ、「学びの保障」を維持できることとなった。保護者からも喜ばれた。また、各学級にプロジェクターを設置したことにより、感染リスクを抑えながら異学年との交流や現地校との交流、そして現地日本企業による体験活動等広い分野での活動が可能となった。例として、中学3年生によるドイツ語劇は、不可能であった異学年交流もICTの活用により可能となった。そして、キャリア教育として行ったHONDA・JAL等の企業体験もICTの活用により、オンライン授業として行うことができた。JALの体験講座は、本校とアムステルダム日本人学校・デュッセルドルフ日本人学校と3校が同時に行われ、ICTの活用だからこそできた貴重な体験であった。ドイツは12月よりロックダウンが始まり、12月末より再び学校も休校措置をとるようになった。2月現在も休校措置が続けられている。コロナ禍ということではできないことを考えることより、いかに「学びの保障」するかという意識がこの研究を通して職員に身につけ始めている。各教室のWi-Fiの環境・プロジェクターの整備・タブレットの整備等 2020年度のICTの整備・活用による研究は「学びの保障」にとっても有意義であることが各実践により検証された。2020年度の学校評価を教職員や保護者に実施したが、インターネットによる授業配信等「学びの保障」の取り組みについては、「保護者は92.8%」「教職員は100%」良い回答を示していた。このことからコロナ禍における「学びの保障」を維持するためのICTの活用は、2020年度の教育を行う上で不可欠であったことが実践報告により実証できたものとする。</p> |
| 4. 取組の背景・目的   |
| <p>(※非常時でも途切れない「学びの保障」の在り方と関連づけて記述してください。)</p>  |
| <p>2020年度当初のフランクフルト日本人国際学校は、国や州の方針により休校となった。本校はWi-Fiの環境の整備が遅れており、事務室・職員室・校長室等一部の地域にしかWi-Fiの環境がなく、オンライン授業にすぐに踏み込めなかった。しかし、各家庭にICT環境についてのアンケート調査をした結果、全家庭でのICTの環境100%整っていることが分かった。一方学校では、各教室にはWi-Fiの環境がなく、教室からの授業配信はできなかった。そのため、全学年に一定量の授業時間を確保できないことなど「学びの保障」を十分に</p>  |

てあげることができなかつた。そこで、コロナ禍でも「学びの保障」ができるよう地元の日本企業KDDIにWi-Fi工事依頼をし、全教室にWi-Fiの環境が整うこととなった。幸い、ドイツでのロックダウンは、学校が休校でも特別な児童生徒及び職員は登校することが許可されており、各教室のWi-Fiの環境の整備はオンラインの授業時間や授業の質の向上へとつながることになった。

2学期には、対面授業ができるようになりICTを活用した授業ができるようになった。各担任も教室にプロジェクターを用いてより分かりやすい授業を心がけるようになり、授業の質の向上につながった。タブレットも購入したことにより、教室内でタブレットの使用法や活用方法についても指導することができ、各学年でICTを活用した授業が盛んになってきた。12月末からはドイツも2度目のロックダウンとなり、学校は再び休校となった。1学期に構築したオンライン授業の方法や2学期に行った「ICTを活用した教育体制構築に関する実証事業」の職員研修が2度目の休校にとっても役立つこととなった。休校のため登校できない児童・生徒に1日5時間のオンライン授業が可能となり、技能教科等もオンラインで行うことができた。また、ICTを活用した職員の研修ではZoomやGoogle Classroomの活用性を検証した。検証結果から、Zoomでの授業活用にはパワーポイントなどのソフトが活用しやすい。Zoomはそれらのソフトと互換性に優れており、資料作成や提示に有効である。小学部からは、わかりやすい教材作りのためにもZoomでのオンラインを推奨している。一方課題配信や宿題の提出等の利便性・話し合い活動等の観点から中学部からはGoogle Classroomが使用しやすいとオンライン授業を推奨している。しかし、ソフトの互換性については課題と思っている。それぞれの発達段階による使いやすさを考慮して、3学期からのオンライン授業は小学部はZoom、中学部はGoogle Classroomを用いてオンライン授業を行っている。3学期からのオンライン授業は、全教室にWi-Fiの環境が整ったことにより、ZoomとGoogle Classroomを使い、長時間授業が可能となった。そのため、兄弟姉妹関係が同時に授業するためには、ICT機器の不足が生じることとなる。そこで、ICT教育推進のため購入したタブレットを貸し出すことにより、児童生徒全員が「学びの保障」を受けられるようにした。

現在もロックダウン中であるが、2月22日からは段階的に登校可能となる。しかし、各学級の人数制限による分散型の登校となる予定である。1学期の分散型の登校では、各教室にWi-Fi環境が整っていないため各教室の児童生徒を2つの教室に分散し、担任の授業をビデオカメラで写した画像を隣の学級のプロジェクターで投影する単一方向型の授業展開しか行えなかつた。しかし、これからの分散型は、各教室にWi-Fi環境とプロジェクターが設置されたことにより、双方向で受け答えができる授業が展開できる。また、感染リスクを防止するため学級の半分が自宅で、半分が学校でICTの活用によりハイブリット型の授業展開も可能となる。

1月には各教室に固定のプロジェクターが整備されたことにより、自分の学級にしながら様々な学年や学級をICTの活用によりつながれるようになった。今までは、プロジェクターを移動して設置していたが、今では、各教室に設置されているため、使用頻度はとても高まった。中でもコロナ禍においては異学年との交流は感染リスクを防ぐため禁止しているため、ICTの活用によりいつでも交流活動が可能となることは有意義であった。

また、2020年度はコロナ禍による感染防止対策により、保護者は学校に入ることができなかつた。各教室にWi-Fi環境やプロジェクターが整備されたことにより、保護者が授業参観等で児童生徒の発表の様子を家庭にしながら参観したり、行事の説明会や弁論大会等行事の様子を参観したりと児童・生徒の活動を保護者向けに公開することも可能となった。3月には卒業式を行うが、受験のために一時帰国した卒業生は、コロナ禍のため、フランクフルトでの卒業式に参加できない卒業生もいる。そのため、日本からの卒業生にも卒業式の会場をオンラインでつなぎ、体育館に大きくプロジェクターで投影した全卒業生が参加できる卒業式を行う予定である。コロナ禍のため、海外ならではの教育の一部である現地校との交流や幼稚園との交流活動も思うようにできなかつたが、ICTの活用によりコロナ禍でも交流活動を行うことが実証できた。

各教室のWi-Fiの環境やプロジェクター設置、タブレットの購入等 ICT を活用した実践は、授業を大きく変えることができた。ICT を活用したオンライン授業は現在工夫改善しながらより良いものになってきていることは、各実践からも検証できる。今後も、コロナ禍における「学びの保障」をするだけでなく、ICT のメリットを活用した実践をもとに、コロナ禍が終息したときにも有効活用できる財産として行きたい。コロナ禍における本取り組みは、とてもタイムリーであり、児童生徒・保護者・教師にとっても「学びの保証」を維持するための ICT の活用の取り組みはとても有意義であった。このことは、教員・保護者アンケートからもよい評価を得ていることからうかがえる。今後も「学びの保障」維持するための ICT を活用した実践を他校への参考としていただければ幸いである。

## 5. 取組の実施日程

| 日程               | 取組内容   |
|------------------|--|
| 11月09日           | 学校祭発表の部 Zoomによる配信                              |
| 11月27日           | 中学部3年生 外国語弁論大会 Zoomによる配信                       |
| 12月01日           | 中学部1・2年生日本語弁論大会Zoomによる配信                       |
| 12月02日           | 小学部クリスマス集会 プロジェクター活用                           |
| 12月03日           | 中学部3年生と小学部1年生ドイツ語交流 Zoomによる配信                  |
| 12月08日           | 中学部3年生と小学部2年生ドイツ語交流 Zoomによる配信                  |
| 12月12日           | 学校評価アンケート回収                                    |
| 12月16日<br>～2月19日 | 小1～小4 コロナウィルス感染防止のための臨時休校によるオンライン授業開始          |
| 12月21日           | 職員 ICT 研修 タブレット・Google Classroom の使用法①         |
| 1月07日            | 職員 ICT 研修 タブレット・Google Classroom の使用法②         |
| 1月11日<br>～2月19日  | 小学部5年生～中学部2年生 コロナウィルス感染防止のため<br>臨時休校によるオンライン授業 |
| 1月14日            | 小学部入学説明会Zoom・プロジェクター活用による配信                    |
| 1月21日            | 中学部入学説明会Zoom・プロジェクター活用による配信                    |
| 2月04日            | 小学部5年生 HONDA 職場体験 オンライン体験Zoom・プロジェクター活用による配信   |
| 2月10日            | 小学部4年生 JAL 職場体験 オンライン体験Zoom・プロジェクター活用による配信     |

## 6. 具体的な取組内容 (※詳細に記載し、付属資料があれば添付してください。)

### 1 学校評価 学びの保障 職員・保護者

毎年学校評価として職員と保護者を対象に実施している。今年は、コロナ禍のため感染防止策として、授業や学校行事の保護者参観は行うことができなかった。そのためオンラインによる配信をするようにしてきた。学校評価の項目を一部変更して、インターネットによる授業による「学びの保障について」調査することにした。資料①は結果の集計である。この結果は12月現在のものであり、この当時は対面授業が実施されていたころの様子であるため、オンラインによる授業は1学期のみの評価と考えられる。

教職員はとても良い評価を示している。保護者もおおむね良い評価を得ているが、1学期のオンライン授業は、各教室にWi-Fiが設置される前のこともあり、電波の不安定感とオンライン授業の授業時数の不足が課題として挙げられる。現在のオンラインの授業は進化しており、再度保護者へのアンケートを試みたい。資料①

## 2 学校祭発表の部Zoomによる配信

本年度は例年実施されている学校祭でのステージ発表がコロナウィルス感染防止のため、実施することができなかった。そのため、屋外で保護者も参観できる各学年のダンス発表を中心に行うこととしたが、感染が広がり、保護者の来校もできなくなった。そこで、児童生徒の活躍の場を保護者にも見ていただく目的で、体育館にも設置したWi-Fi環境により発表の様子をZoomで配信を行った。個人情報の関係もあり、配信の承諾を得ることと固定カメラで全体を撮影するよう配慮した。Zoomには人数の制限と電波の状態の不安定さがあり、1 学年ずつの入れ替えとした。保護者からは好評であり、コロナ禍の中でも学校の様子を見られたことに対する喜びのメッセージが担任に寄せられた。

資料②

## 3 中学部 3 年生 外国語弁論大会Zoomによる配信

毎年、グローバルな人材の育成を目的として、英語かドイツ語でプレゼンをしながら自分の思いを伝える場を設けている。今年は、コロナ禍のため異学年との交流ができず、オンラインでの配信となった。中学部 1 年生・2 年生はプロジェクターを使用し自分の教室から弁論大会を視聴する形となった。またこの様子は、中学部3年生の保護者にもZoom配信により視聴してもらうことができた。中学部 3 年生の生徒からは、観客のない分さみしかったが、オンラインのため、緊張感は薄れたと感想を漏らしていた。保護者も参観できたことに好評であった。

資料③

## 4 中学部 1 年生・2 年生 日本語弁論大会Zoomによる配信

中学部 3 年生の日本語版として、自分の考えを伝えるという目的で日本語弁論大会を設けている。コロナ禍のため異学年との交流ができず、オンラインでの配信となった。中学部 1 年生・2 年生・3 年生はそれぞれ自分の教室からプロジェクターを使用し、弁論大会を視聴する形となった。また、保護者にもZoomにより同時配信し視聴してもらうことができた。中学部 1 年生はとても緊張している様子が伝わったが、中学部 2 年生は観客がいなくて物足りないとの感想もあった。

資料④

## 5 学部 3 年生と小学部 1 年生・2 年生とのドイツ語交流Zoomによる配信

体育館にて中学部 3 年生が取り組んできたドイツ語による人形劇を小学部低学年が視聴する計画があった。コロナ禍により、対面での交流はできずZoomでのオンライン交流となった。小学部の教室には、プロジェクターにより中学部 3 年生のドイツ語劇が大きく映し出され、児童はとても感動していた。その後の交流会でも児童が感想を言ったり、児童から歌でお礼をしたりとてもよい雰囲気であった。

中学部 3 年生からは、自分たちの人形劇を見もらえる機会があつてよかったことと、今まで取り組んだ成果がオンラインでも発表できたことに喜びを感じていた。小学部もお兄さん・お姉さんの劇は楽しかったと感想を発表していた。感染防止策の一環であるが ICT の有効利用と考えられる。

資料⑤

## 6 ロックダウン中のオンライン授業

12月16日より小学部 1 年生から4年生まではオンライン授業となり、1 月11日からはすべての学年でオンライン授業となった。Wi-Fi環境の整備が行われたことにより「学びの保障」へとつながった。小学部につ

いては午前中 4 時間授業ができるようになり、中学部は午後を含む 5 時間オンラインによる授業が可能になった。ICTの研究の成果がここにも表れている。小学部については、今まで使い慣れた、Zoomによる授業配信を行い、中学部は Google classroom で配信するよう変更した。これは、教材の配信には、Google classroomの方が便利であることから切り替えた。小学部も教材の配信のみ Google classroomに変更する予定である。授業については、どちらも問題はないが、課題のやり取りや添削ができる点は Google classroomがすぐれている。

小学部は各学年・中学部は各教科の指導案(略案)を資料として添付する。

資料⑥

## 7 職員研修

ロックダウンに伴い、ICTの研修を冬休みに2回行った。今回は、購入したタブレットの使い方と Google classroom の使い方の研修を主に行った。みんな生徒になったつもりで研修担当の職員より真剣に講習を受けた。このことにより、中学部は、Google classroom によるスムーズなオンライン授業・課題配信ができるようになった。

資料⑦

## 8 小・中学部入学説明会

次年度入学する小学校1年生と中学校1年生の保護者を対象にオンラインによる入学説明会を行った。例年だと授業参観を行う予定だったが、休校中のため中止となった。しかし、例年とは違い、オンラインの説明会では、現在日本にいる入学予定者にも説明会に参加することができた。学校としても、日本からの予定者にも声掛けができたことは人数把握にもなりとてもよかった。

資料⑧

## 9 小学部5年生 HONDA 職場体験 オンライン体験

小学部5年生を対象に HONDA の職員によるオンラインの職場体験を行った。本来なら HONDA の会社へ児童が伺い体験してくる講座であるが、今年度は、オンラインでの体験となった。早朝より HONDA の職員が来校し、会社の取り組み等を紹介した後、新しい車のデザインをつくるという作業をした。HONDA よりあらかじめ用意された教材を各家庭に郵送しておき、教材を使いながらオンラインにて、HONDA 職員による授業が行われた。専門的な話や作業を通して、オンラインの中でも十分体験することができた。

HONDA の職員は、プロジェクターにより児童の様子を観察し、時にはグループでの討議も行った。最終的にできた試作品のデザインを見せ合い児童も満足そうであった。児童の感想からは、とても楽しく、4時間のプログラムであったが時間がたつのがとても速かったと話していた。

資料⑨

## 10 小学部4年生 JAL 航空教室 オンライン体験

小学部4年生を対象に空港に関する仕事について学習する機会を得た。例年だと、直接フランクフルト空港内で説明を聞くことになるが今回は、オンラインでの授業となった。今回は、オンラインの利便性を活用し、フランクフルト日本人国際学校とデュッセルドルフ日本人国際学校とアムステルダム日本人学校の3校合同の航空教室となった。まったく顔を合わせたことのない3校が空港や飛行機の仕組みなど真剣に学ぶことができた。これは、オンラインならではの活動であると思う。それぞれの学校の児童はそれぞれ思ったこ

とを質問していたが、同じ海外で過ごす児童のため共通した考えを持ち授業に参加していた。実際に見学へ行くことの良さは薄れるが、同時に他校生徒と学べたことは、有意義であった。

資料⑩

## 7. 取組の成果

(※どのような課題をどのように解決したかや、生徒・児童への効果等について詳細に記載し、成果物があれば添付してください。また成果がどのような観点で他の学校の参考になるかも記載してください。)

### 1 学校評価「学びの保障」について

コロナ禍になる前には、授業時数の確保や授業の質の向上について取り組んできたが、コロナ禍となると、いかに感染防止に努めながら、家庭にいる児童生徒に「学びの保障」するかが課題となってくる。ICTの環境整備は後回しにしてきた学校としては、急な展開に戸惑いを感じていた。しかし、日本人学校の保護者の意識は違っていた。政府より休校が決定し本校の方針を通知すると、保護者(父親)より一本の電話があった。「校長先生、私たち駐在員のほとんどの家庭ではインターネットの環境はそろっているの、一度調査してみたらどうでしょう」と前向きな連絡を頂いた。早速、メールにて全家庭にICT環境状況の調査することとした。結果は、インターネットの環境やパソコン等の機器の保有については100%整っている。プリンターについては66%の保有率という結果となった。フランクフルト日本人国際学校の家庭環境はすぐにもオンラインによる授業ができることを実感した。そのため、休校の通知から1週間ほどでZoomによる試験配信・本配信へと準備を進めた。当初は学校のICT環境が整わず、各学年短時間のオンラインによる授業であったが、コロナ禍における迅速な対応ができたことも考慮して、教職員も保護者も良い評価を得ていると考える。

3学期も再びオンライン授業となったが、この実証事業により整備したWi-Fi環境やプロジェクターにより、オンラインによる授業や教材の配信等この1年間で本校のICT教育は、大きく飛躍した。児童生徒及び教職員の意識向上・技術向上は数字には表れないが、授業の内容・児童生徒の受け答え、個々の機械操作等の観点から確実にICT教育は向上していると評価している。

### 2 学校祭発表の部 Zoomによる配信

学校祭は本校にとって2学期最大のイベントである。今年はコロナ禍のため、1学期の運動会も中止となった。学校祭も児童生徒はもちろん保護者も楽しみにしている行事である。例年だと体育館に特設ステージを設置し、工夫を凝らした演劇等を披露するのだが、コロナ禍により体育館に一度に大勢の人が入ることは感染防止からできない。そこで、今年の学校祭発表の部は運動会でできなかったダンス発表を校庭で行うこととした。しかし、コロナ禍はさらにひどくなり、屋外であっても保護者の来校が出来ない状態になった。そこで保護者に初めて、学校行事をオンラインで配信する計画を立てることとした。まずは、個人情報や特定の児童生徒が多く出演して平等性に欠くことがないように固定カメラからの配信とした。また、一度に大勢の入室があると許可をするのに時間がかかることから我が子の学年以外はその都度退出するようお願いした。保護者も初めての試みで戸惑いもあったが、ルールを守り問題なく配信ができた。後日保護者からは、感謝の言葉を多くいただいた。

### 3 4 中学部 外国語弁論大会 日本語弁論大会 Zoomによる配信

グローバル化の中、世界で活躍できる生徒を育成するため、日本語や外国語で自分の考えや意見を堂々と述べる機会を作っている。例年では保護者も参観できることになっており、我が子の成長ぶりを見て

いただく良い機会となっている。さらに、異学年の前で発表する緊張感も良い刺激となっている。しかし、今年度はコロナ禍のため異学年との接触は感染防止対策から行うことができない。発表演台の前には、アクリル板を置き、同一学年のみで大会を実施した。異学年生徒は、オンラインにより配信し、教室ではプロジェクターによりその様子は投影された。また、保護者にはオンラインにより同時配信し自宅にて我が子の発表の様子を見れるようにした。生徒側からするとやや緊張感に薄れることはあったようだが、ICT活用により感染防止のリスクを負うことなく、中学部全員で大会を発表をすることができたことはとてもよかった。保護者からも発表の様子が拝聴できたので安心したと後日知らせてくれた。新しいスタイルでの弁論大会ではあるが、感染のリスクを抑え、ICT を活用することにより、出来ないと思ったことが可能になったことは有意義なことである。

## 5 中学部3年生と小学部1年生・2年生とのドイツ語交流 Zoomによる配信

この活動も例年ならば体育館で小学部がお客さんとなり、ドイツ語の人形劇を見ることにより、異学年の交流をする機会となっている。しかし、コロナ禍のため異学年との接触は避けなければならず、せっかく練習した成果を見てもらえないのは残念と思い、オンラインによる異学年の交流を試みることにした。中学部は体育館で人形劇の準備をし、小学部は自分教室から中学生の人形劇を鑑賞する形となった。

無観客での芝居ではあるが、カメラでとらえた映像や音声は、確実に小学部のプロジェクターに大きく映し出された。人形劇終了後は、小学部からのお礼や質問、歌などを中学部に配信し、相互の交流となった。これは、コロナ禍だったからの発想で、感染リスクもなく交流することができた。この交流会の実践の成果は、これから行われる現地校との交流会へと生かされることとなる。人と人との交流は感染防止対策からも避けるべきではあるがICTを活用すると交流活動も可能となるということが実証された。

## 6 ロックダウン中のオンライン授業

1学期のZoomによるオンライン授業は黒板代わりにパワーポイントを活用し、知識を教える形の授業形態が多く見られた。ICTを活用した実証研究により、オンラインによる授業方法が進化・発展してきていることが現在のオンライン授業によりわかる。小学部はZoomによる授業を展開しているが、パワーポイントだけではなく、教室の黒板を利用したり、グループごとに分かれての討議をしたり、動画を配信したりと対面授業のように工夫を凝らして授業に取り組んでいる。中学部はZoomから Google classroom に切り替え教材の配信や宿題・添削等授業時以外でもオンラインに取り組んでいる。使い方のメリット・デメリットは職員の研修で共有し、発達の実態、保護者の協力等を考慮し実践を行っている。今後は小学部にも Google classroom の教材配信にする予定であるが、課題として、保護者への協力依頼が必要となってくる。

教職員や保護者のアンケートからコロナ禍における「学びの保障」を維持するためのICTの活用は今年度良い結果が得られているが現在のICTの活用は、異学年交流や企業からの体験活動・保護者への配信等過去に例のない新たな取り組みを多くしてきた。授業の様子や交流の様子を今後の参考となるよう指導案形式にまとめたものを資料とする。

## 7 職員研修

本年度の職員の研修は、現地理解教育を中心に社会科副読本を改定することを主としていたが、コロナ禍において、ICTを活用し「学びの保障」をどのようにしていくかという方向へ変更した。ロックダウンにより、登校できない児童生徒へICT環境を整備する面と授業の進め方にかかわる面について研修を深めた。環境面は、検証事業の援助を受けながらWi-Fi環境・ICT機器等が整備されることとなった。一方活

用する教職員もソフト面の検討や使い方等を研修し、児童生徒に対面授業と同等の「学びの保障」ができるよう試行錯誤を繰り返した。その一部である。研修の内容について添付した。

## 8 小・中学部入学説明会

本校は、幼稚部・小学部・中学部と併設されている日本人学校であり、入学してくる児童・生徒は、ほとんどが幼稚部・小学部からの進学であり、学校の様子はよく理解している。しかし、それぞれの授業の様子を参観する機会を持つことにより、学校への理解を深めている。しかし、今年度はコロナ禍により、保護者を学校に集めての説明会ではできない。そこでオンラインでの説明会を実施することとした。資料は事前を送付し、目を通してもらうことができたため、説明会では質問等もなかった。日本人学校ならではの保護者のつながりもあり、混乱はなかったものと思われる。一方この4月から日本からの始めて入学する児童生徒もいる。この方たちの説明会は、今まで個々に資料を送付しその都度メールにて連絡を行っていた。それが今回は、オンラインのため、幼稚部・小学部から進学する保護者と日本にいる保護者とが同時に行えたことはとても有意義であった。直接学校へきて様子を見てもらうことはできなかったが、次年度入学予定の全員が参加できたことはオンラインならではの説明会であったと思う。

## 9 10 HONDA 職場体験 JAL 職場体験 オンライン体験

コロナ禍でなければ、日本企業による体験活動を実際に行って学ぶ機会を得ている。しかし、今年は、コロナ禍により参加が不可能なため、企業さんに協力していただきオンラインでの体験活動を実現した。

HONDAさんは体験プログラムを変更し、教材等は郵送による事前配布し、前半は動画や講師の説明・グループの話し合いを行い、後半はあらかじめ郵送しておいた教材を使い、新しい車のデザインを作成する作業に取り組んだ。作業を伴う授業であり、児童も意欲的に取り組んでいた。HONDAの職員さんの豊富なアイデアにより、感染リスクのない方法で体験ができたことは、今後の活動の参考になる事例と考える。

JALさんは、例年なら空港で働く人の様子を直接見学し国際線の機内食を試食するプログラムであったが、コロナ禍ではできず、映像と整備士さんとの質疑となった。しかし、今回は、本校だけではなくデュッセルドルフ日本人とアムステルダム日本人学校の児童が同時に学習する授業となった。オンラインならではの活動である。3校が共通のテーマで授業をし、どの学校の児童も共通で質疑を出し合い授業を深めた。

コロナ禍だから考えられた体験プログラムではあるが、オンラインを使うことにより、他校と一緒にできる活動が今後も模索できることがこの活動を通して検証された。配慮事項として、お互いの学校の児童が顔を出して授業が行われるため、個人情報の保護の観点から約束を決め、撮影等の禁止事項はあらかじめ保護者にも周知した。

コロナ禍においてオンライン授業の果たした役割は「学びの保障として」大きな成果であった。このことは、教職員・保護者のアンケートからもうかがえる。コロナ禍という状況になれば、オンラインによる授業はまだ先の話と考えていたに違いない。日本国内でも同様に考えているのではないかと思う。しかし、本校で取り組んだ成果は、まだ、オンライン授業を経験していない学校にとっては、役立つものと思われる。資料として添付したものをぜひご覧いただき、活用できるものは参考にさせていただきたい。

## 8. 今後の課題・展望

(※次年度以降への継続性及び発展性に言及してください。)



2020年度はコロナ禍ということもあり、ICTを活用して家庭にいる児童生徒に「学びの保障を」どのようにしていくかを考える1年であった。本校では2学期より対面授業ができるようになったが、Wi-Fi環境が整ったり、プロジェクターが各教室に設置出来たり、タブレットが購入されたりと、ICT環境が素晴らしく良くなった。しかし、コロナの終息は見えず3学期からは再びロックダウンとなり、ICTを活用した「学びの保障」は継続して検討する課題となった。2学期に職員研修として行った、オンライン授業の方法については、今後もいつ起こるかわからない学校休校に備えるためにもここでの研究を継続し、次年度以降有効活用できるものとして研修を継続してきた。3学期に入り再びロックダウンが行われたことにより、オンライン授業が継続された。今まで以上に「学びの保障」を意識するようになり、成果の部分と課題の部分が見え始めてきた。

成果としては、コロナ禍における感染に関するリスク回避のためにとっても有効である。オンラインでもグループ討議などもでき、授業として有効な使い方ができる。

課題としては、ドイツでは電波の環境が不安定なため、一斉にホームワークをしている時間帯は遮断してしまうことがしばしばあった。慣れてくるとチャット等書き込むことができるようになり集中しないこともあった。Zoomでは入室の許可を行うが、Google classroomではセキュリティーは大丈夫かという問題もあった。

現在ICTに関する急速な展開により、セキュリティーや個人情報の対応が課題となっている。次年度以降に向けてマニュアルの見直しと、ICTの活用について再度検討していく必要がある。

タブレットも購入し、家庭と学校をつなぐICT教育についても今後研修の必要性がある。海外といういつものような状況にあっても児童・生徒たちにとってICT教育は強い味方である。今年の研究をもとに次年度以降も研究を深めていきたい。

## 9. 所感

2020年はコロナ禍のため、対面授業・学校行事とほとんどできない状況で達成感のない1年であった。これは教職員も児童生徒も同じ気持であったと思う。マイナス的な発想をするとできないことが多かったとなるが、プラス的な発想をすると、ICTを活用したオンラインの授業は、今までに経験したことのない大きな財産となった。今後も進展するであろうICTを活用した教育体制の構築に意識が高まった。コロナ禍において必要に迫られたことより始まった研究ではありますが、取り組むにつれてフランクフルト日本人国際学校にとっても貴重な研究であったことを実感しております。本研究に関して様々な方面からお力添えを頂いた皆様に感謝し、御礼を申し上げます。

※提出いただいた報告書や成果物は、本事業の取組成果として公開する予定です。また、記載いただいた内容は文部科学省や海外子女教育振興財団のその他の資料にも使わせていただく可能性があります。

※記入欄は適宜拡張してください。